

与謝野町公共施設等マネジメント推進委員会（令和 7 年度第 1 回）要約

日 時 令和 7 年 5 月 2 9 日（木）午後 7 時 0 0 分～午後 9 時 0 0 分

場 所 岩滝保健センター 会議室 1・2

出席者

委員（敬称略）

川勝 健志	青山 公三(ワライ)	杉岡 秀紀	坂中 綾香
佐々木 和代	西川 明宏		

町長

山添 藤真(ワライ)			
------------	--	--	--

事務局

井上副町長	総務課 柴田課長	総務課財産活用契約室 細井室長	企画財政課 山口課長
企画財政課ふるさと応援促進室 小室室長	企画財政課 大江主幹	企画財政課 渡邊係長	企画財政課 松本係長
企画財政課 秦主任	産業観光課 市田課長	建設課 柴山課長	教育委員会 中上教育 次長兼学校教育課長
教育委員会社会教育課 小谷課長			

傍聴者 4 名

会議の日程

- 1 開会
- 2 町長挨拶
- 3 議事
 - （1）公共施設等総合管理計画の実施状況について
 - （2）第 1 次答申に対する町の考え方の一部修正について
 - （3）庁舎の検討手順について
 - （4）その他
- 4 閉会挨拶

会議の経過

- 1 開会

2 町長挨拶

- 本日の議題は「公共施設等総合管理計画の実施状況」や「庁舎の検討手順」など。
- 合併 20 年の節目に、分庁舎方式の見直しを含む庁舎の在り方を第 3 次総合計画と並行して議論する意向を表明。
- 庁舎問題は合意形成に時間がかかるが、積極的な議論をお願いしたい。

3 議事

(1) 公共施設等総合管理計画の実施状況について

- 野田川庁舎解体の財源として合併特例を活用するという計画があったのではないかな。
⇒計画はなかった。
- リフレかやの里の改修については民間活用方針かな。
⇒3月定例会で普通財産にさせていただいた上で、今募集をかけている。
- 公共施設における住民への周知状況はどうなっているのかな。
⇒十分ではなく、不断の努力に努める。

(2) 第 1 次答申に対する町の考え方の一部修正について

- 建設を前提とした検討となり、既存庁舎の活用はもうしないということかな。
⇒最終的には総合的に判断。
- 町長施政方針として明確なメッセージが出されたことは大きい。

(3) 庁舎の検討手順について

- 他市の事例から「庁舎専門監の配置」や「周知・広報の強化（SNS 活用含む）」が必要なのでは
- 住民の声を拾う方法について、デザイン会議だけでなく保護者会・PTA 等の現場に行政が出向くべき。
- 中高生・子育て世代など世代別の意見聴取が必要。
- 無作為抽出方式は参加率が低く高齢層に偏りやすい。テーマ別・世代別チームを編成し、知人を介した参加呼びかけを工夫すべき。
- 総合計画の策定プロセスと一体的に庁舎を中心とした公共施設のあり方を考えていくという場に、総合計画の策定に関わっていただく多くの住民の方々に議論するための素材を、この委員会としても提供していかないといけない。

(4) その他（町のコンセプトについて）

前回の委員会で「町のコンセプトとは何か」が話題となり、委員から改めて定義や共有が必要との意見が出た。

「人・自然・伝統 与謝野で織りなす新たな未来」という総合計画の将来像があるが、抽象的でイメージが共有されにくいとの指摘。

○コンセプトやビジョンは町が定義すべきもので、委員会はそれを基に議論する立場。

○自治基本条例やまちづくり基本条例がないため、与謝野町の「最上位の理念」が不明確。

分かりやすく象徴的なフレーズが必要。

○AI を用いたまちの資源やイメージの抽出も参考になる。住民参加でブランドメッセージを創る取組も検討に値する。

○コンセプトと公共施設議論は切り分ける必要があるが、公共施設を考える上でも「軸」が必要。特に総合庁舎建設の方向性が示されたことで、議論の焦点が定まりつつある。

○庁舎問題について、過去の庁舎統合検討委員会では「時期尚早」とされたが、現在は新たな検討の好機。

○委員会の議論を進めるには、判断基準となる「軸（コンセプト）」が必要。

町長が総合庁舎建設を明確に打ち出したことが、公共施設マネジメント全体の基盤となりうる。

これにより、交通や都市構造なども具体的に議論しやすくなった。

町長発言

○委員から多様な視点やアイデアを得られ、今後に活かしたい。

○コンセプトは総合計画等を指し示す「共通言語」ということがイメージできた。

○自身の政治的理念として「住民の知恵と技術で新たな価値を生み出す町」を掲げてきた。

○第3次総合計画策定を通じて、町民参加のもとでより具体的に位置づけたい。

委員長まとめ

○町長は「住民の皆さんの英知を結集して、価値創造的なまちづくりをしていく」ことを目指していると理解。

○総合庁舎を軸に、公共施設全体あるいはまちづくりを考えていくアプローチは、その方向性と非常に親和的。

○公共施設は、自分の暮らしに身近な施設の思いは非常に強いが、それ以外は関心が向かない。しかし、総合庁舎に関しては無関係の人は誰もいない。

○総合庁舎の議論を総合計画の策定プロセスと一体的に進めることは、町を挙げて、これからのまちをどうつくり上げていくのか、住民の方に当事者意識を持って関わっていただく良いきっかけ。